



# 研究所だより



暑さも峠を越し、かすかに秋の気配を感じる毎日となりました。皆様方にはご健勝にてお過ごしのことと存じます。また、日頃は教育研究所の運営、活動にご支援、ご協力を賜り、心から感謝とお礼を申し上げます。

さて、この夏も様々な出来事がありました。特に、57年ぶりとなる東京での夏季オリンピックは、コロナ禍の中でかなり心配されましたが何とか終わることができました。全力で競技を行う選手の姿、競技後に流れる涙は、世界中の人々に感動を与えてくれました。コロナ感染拡大という状況の中、無事終えて本当によかったと思います。

学校においては新学期の始まりです。子どもたちにとって、2学期は何かと行事も多く、慌ただしい毎日となります。教職員の皆様は、児童生徒と向き合い、共に学習や活動をする中で、日々の成長が実感できることと思います。「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業づくりと地道に基礎的な学力を身に付けることで、子どもたちが将来、自分の夢や希望が叶えられるようになればと考えています。

中土佐町の子どもたちにとって、中土佐検定テキストは、基礎学力をしっかりと定着させ、脳を活性化させるためのものです。夢や希望に少しでも近づけるよう、このテキストでしっかりと土台となる基礎を固めて欲しいと思います。

中土佐町教育研究所 所長 古味秀夫

## 第1回中土佐検定を振り返って



検定の様子（久礼中）

6月9日に小学校、15日に中学校でそれぞれ中土佐検定を実施しました。

小学校1年生を除き、町内の児童生徒の皆さんが真剣に取り組み、検定に挑戦することができました。集計結果につきましては、次頁となっています。

集計結果を振り返って、誤答率の高い項目は、

### ○小学校算数

- ・ 3位数×2位数の積を求める計算
- ・ 分数の大小を等号、不等号を使って表す

### ○中学校数学

- ・ 指数の計算
- ・ 小数のある方程式
- ・ 四則の混じった正負の計算
- ・ 共通因数をくり出す因数分解

### ○中学校英語

・ 英単語のスペル

・ 条件の言葉を入れての英作文

となっています。間違いランキングの詳細は、各学校に送付させていただきました。

## 令和3年度 第1回中土佐検定の結果

### ○小学校算数

学年	1年生 (検定なし)	2年生 (15級)	3年生 (12級)	4年生 (9級)	5年生 (6級)	6年生 (3級)	町全体
受検者数		35	32	35	43	33	178
平均点		92.1	96.9	88.9	89.0	92.8	91.7
合格率 (%)		100%	100%	100%	93%	100%	98%

### ○中学校数学

学年	1年生	2年生	3年生	町全体
受検者数	35	24	42	101
平均点	80.6	78.3	76.1	78.2
合格率(%)	83%	96%	90%	89%

### ○中学校英語

学年	1年生	2年生	3年生	町全体
受検者数	35	24	42	101
平均点	89.2	78.9	80.2	83.1
合格率(%)	91%	83%	86%	87%

※平均点は本試験のもので、合格率は再試験、再々試験を含めてのもので、中土佐検定は基礎学力を身に付けるために、算数や数学は、計算問題が中心となっています。同じような問題を何度もやることで、脳の前頭前野を鍛えることができます。基礎学力の問題で、最終合格率が80%台の結果となっているのが心配です。この結果から基礎学力定着状況の課題を把握し、授業改善や個別支援等につなげて下さい。間違いランキングの問題は、間違い箇所をもう一度、児童生徒と確認をお願いします。

## 中土佐検定の取り組み

小・中学校のそれぞれの担当者別に中土佐検定担当者会を開催しました。第1回検定の結果の確認、取組や課題を共有し、次のことを確認しました。

- ① 検定スケジュールは予定通り行い、免除者、配慮者への対応について確認された。
- ② 検定はテキスト内容から出題し、英語と漢字の再試験、再々試験の問題は同じで並び替える
- ③ 中土佐検定への各校の取り組みについて確認された。
- ④ 検定に関して研究所への問い合わせは、担当者又は管理職が行って下さい。
- ⑤ 英語のプレテストは採点時の解答を共有するため、研究所にコピーを送付して下さい。
- ⑥ 次回の中土佐検定担当者会は小学校2月14日、中学校2月15日にそれぞれ行います。

中土佐検定への取り組みや結果については、学級担任、教科担任だけでなく、すべての教職員の皆さんで共有していただき、学校全体で基礎的な学力定着状況に関する課題を把握し、改善に取り組んで欲しいと考えています。

各学校の中土佐検定に関する取り組みの中にもありますが、検定実施後の対応が大切であると考えています。各校で検定前にプレテストを行っていますが、このプレテストの結果に対して対応、本試験の結果に対しての対応、再試験の結果に対しての対応と「できなかったこと」が「できる」という子どもたちを変化させることが検定実施後の対応であります。授業や家庭学習、個別支援等で対応し、全員に基礎的な学力が定着し、脳の活性化を図るために活かしていただきたいと思います。



### 小学校

	本年度の学校での取組
大野見小	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校全体でにんむすタイムで取り組んでいる。(ことばのきまりは帯タイムに児童の力で進めていくことが難しいため、教師と一緒に進めている) 5・6年生</li> <li>・朝自習10分間取り組むときもある。</li> <li>・授業中にも課題としてテキストを進めるようにしている。</li> <li>・本試験前にプレテストを実施。</li> <li>・時間内に終わらせるように意識して取り組んだ。(10分間で2ページ等) 3・4年生</li> </ul>
上ノ加江小	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水曜日の5校時を上小タイムとして検定テキスト問題に取り組んでいる。</li> <li>・授業中のすきま時間にもテキストを進めるようにしている。</li> <li>・月曜日の掃除後の帯タイムを「ことばのきまり」の時間として、全校で取り組んでいる。</li> </ul>
久礼小	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校全体で水曜日の1時間目に15分間検定問題に取り組んでいる。</li> <li>・毎週水曜日のホップの時間でも取り組んでいる。</li> <li>・授業中にも課題としてテキストを進めるようにしている。</li> <li>・プレテストや過去問に何回も取り組むようにしている。</li> <li>・間違いランキングにも取り組むように、担任に声かけを行っている。</li> </ul>

### 中学校（数学）

本年度の学校での取組	
大野見中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中土佐検定前にプレテストBを実施し、自分が取り組むべき問題内容を明確にする。</li> <li>・生徒が実態を正確に把握することができるようにプレテスト A を実施し、間違っただ問題を中心に帯タイム、チャレンジタイムの時間を使って補充する。</li> <li>・帯タイムの10分間で、テキストを使った学習を行う。</li> <li>・基礎基本の定着を目的とした TT での授業を行い、「努力を要する」状況と判断される生徒への指導を、特に授業内で充実させる。</li> </ul>
久礼中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4週間前より取り組み開始。</li> <li>・朝学習や帯タイムで小テストを14回実施し、2問以上間違っただ生徒は再度行う。</li> <li>・テキストの問題を抜粋して授業中に行った。</li> <li>・1週間前プレテスト A・B から抜き出してプレテストを作成し実施。</li> <li>・学力の厳しい生徒には、生徒の学力にあったプリントを用意して対応している。</li> </ul>

### 中学校（英語）

本年度の学校での取組	
大野見中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チャレンジタイムでプレテストを実施、80点未満の生徒には再テストを実施している。</li> <li>・語彙力、単語力の向上を目的に帯タイムの時間で、これ単を活用した。</li> </ul>
久礼中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4週間前より取り組み。</li> <li>・1週間前プレテスト A, B から抜き出してプレテストを作成して実施。</li> <li>・80点未満のプリント学習の実施は学年によって行っている。</li> <li>・検定前はテキストから抜粋した問題を取り組ませている。</li> </ul>

### 研究所関係の予定（2学期）

月 日	会合・検定予定	備 考
9月22日	第1回中学校中土佐検定（漢字）	検定
10月 4日	第2回中土佐検定数学科・英語科検討委員会	テキスト編集
11月 9日	第2回中学校中土佐検定（数学・英語）	検定
11月17日	第2回小学校中土佐検定（算数）	検定
	第3回中土佐検定数学科・英語科検討委員会	必要に応じて実施

1学期同様、2学期も各学校の公開授業、校内研修会等へ研究所から参加させていただきたいと思ひます。お手数料をおかけしますが開催する場合は研究所まで連絡をお願いします。

### 新しい職員紹介

欠員となっていました研究所職員に、8月から新しい職員が配置されました。毛利由花さんです。よろしくお願ひ致します。

## 輝く子どもたち

「研究所だより」の中で「輝く子どもたち」を掲載させていただきます。学校と研究所との取り組みの共通理解を図り、授業の中で子どもたちが輝いている姿を掲載したいと思います。できる限り研究所職員も公開授業に参加させていただきますので、よろしくお願いします。



上ノ加江小学校5・6年生

☆6月7日（月） 上ノ加江小学校5・6年生校内研修  
授業者：市川 麻子 教諭

国語科 5年「環境問題について報告しよう」 6年「防災ポスターを作ろう」

6年生はテーマを決めて、調査計画を立て、ポスターを書く情報を話し合う授業でした。身近な課題に対して、それぞれの学年のリーダーが中心となって意見をまとめ、発表していました。少人数の授業の場合、多様な考えや深まりをどのように補うかが課題だと思いました。

☆6月16日（水） 久礼中学校1年生授業改善プラン  
授業者：吉田 和樹 教諭

社会科 「世界の古代文明と宗教のおこり」

グループで資料やタブレットを活用して古代の文明について調べ、共通点を考察して発表していました。グループでの話し合いの深まり、時間確保が大切だと思いました。これからの話し合い活動が楽しみです。



久礼中学校1年生

☆6月16日（水） 大野見中学校1年生授業改善プラン  
授業者：森 健太郎 教諭

社会科 「縄文時代と弥生時代の社会の変化」

授業の見通しを時間で区切り、計画的な授業展開でした。ステップチャートの活用で想像力の広がりに関連性についての理解が深まった話し合いができたように感じられました。

☆6月22日（火） 大野見小学校1年生校内研修  
授業者：山脇 智恵 教諭

国語科 「どうやってみをまもるかな」

動物の身を守る方法について読み取り、ワークシートに書き、説明する授業でした。言葉を動作で表現し、実際にやってみることで、わかりやすくなった授業でした。



大野見小学校1年生

## 主体的・対話的で深い学びのある授業づくり

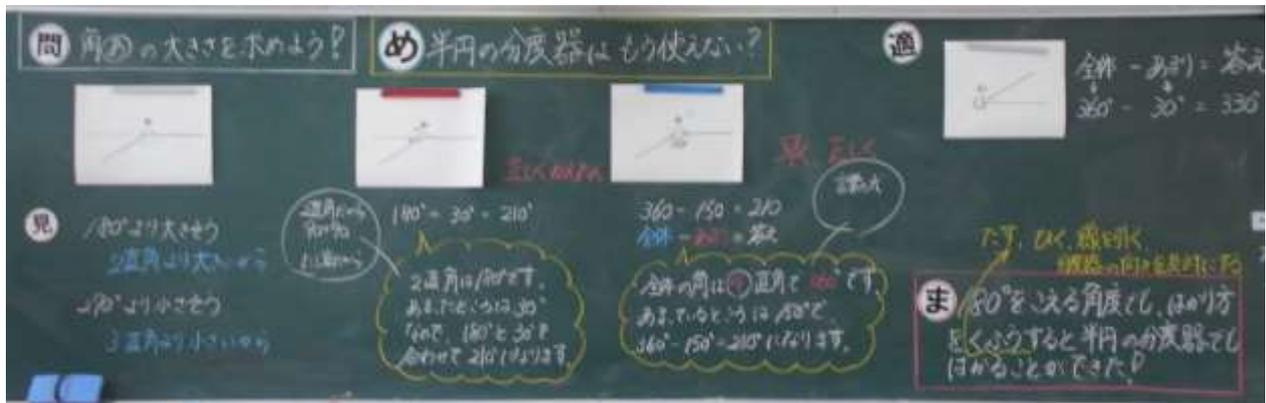
研究員 森 将人

1学期は久礼小学校4年生担任の大崎先生にご協力いただき、「角の大きさ」の単元の指導について研究させていただきました。単元のゴール（目指す子どもの姿）を、  
①角の大きさを表す単位について理解し、いろいろな角を測定することができる  
②180度より大きい角について、求め方を考察し説明することができる  
として、授業を行っていただきました。その②についての実践について紹介します。

### 【提案内容】小学校第4学年「角と大きさ」【授業者】大崎 秀 教諭(久礼小学校)

#### 提案授業の内容

本時のねらいは、180度より大きい角度を求めるために、○直角に着目して測定が必要なところと不要なところに分けて考えることが大切であることを学ばせたい授業である。本時までに児童は角度を表す単位を知り、分度器の観察を通して測定の仕方を知って、実際の角の大きさを測定してきた。大崎教諭は毎時間、児童の興味・関心を高めるための「問い」を大事にしており、本時の導入発問も「半円の分度器はもう使えない？」として、児童に困り感をもたせることで授業に集中できる状況を作った。



#### 授業の様子

本時までに大切に指導してきた角の大きさの見当によって、本時の課題においても「2直角より大きく3直角より小さい」ということを見いだすことができていた。このことから『180度と余り』という考え方をを用いて、補助線を引くなどして課題を解決しようとしていた。その中で  $180 + 30 = 210$  については多くの児童が理解できていたが、別の児童が  $360 - 150 = 210$  という方法を発表したときは、多少混乱が広がった感じがあった。この2つの考え方はどちらも○直角を利用することには変わりはないが、『180度と余り』という考え方で解決していた児童にとって360度の意味や引き算の意味について、一度考えを整理する時間が必要だったと思われる。それでも一時間の授業を通して児童は主体的・対話的で深い学びを進めることができていたと思う。

\*本授業の詳細や、本時以外の授業についても記録し詳細をまとめてあります。ご覧になられたい方は、研究所へご連絡いただければ対応させていただきます。